

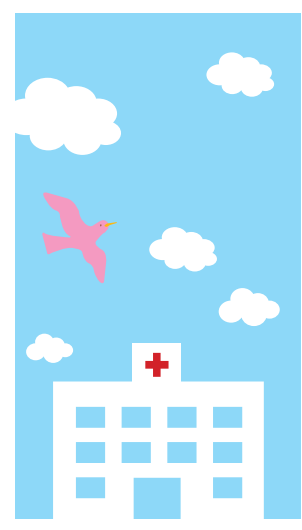
「医療情報サービス会社」  
知っていますか？  
多選肢治療時代の到来



あなたはイザという時、相談  
できる医師が何人いますか？

後期高齢者医療制度の施行が始まるなど、高齢化の進む日本では様々な医療制度改革が進んでいます。世界トップレベルの医療水準であるものの、他方では地域間格差、高騰する医療費、医師不足、がん対策の遅れなど多くの問題を抱えています。このように厳しく変化  
する医療環境のなかで、最近特に注目され始めているのが医療情報サービス会社です。従来までの医師から勧められた治療を当たり前に受けるのではなく、自身の価値観、生き方、コストを考慮し、自ら治療を選択する。そんな「受ける治療から選ぶ治療」への橋渡しの役目が期待されている医療情報サービス会社。いったいどのような会社で、なぜ必要とされるのでしょうか。検証してみましよう。

※後期高齢者医療制度とは：75歳以上の高齢者を対象とする新たな医療保険制度。保険料が年金から天引きされるようになります。



医療情報サービス提供サービスとは

医療情報サービス会社では、病院と患者さんの間に入って一人ひとりに合った治療機関の紹介や、治療方法の選択などのサポートを行っています。医師や看護師などのスタッフが24時間常駐しているため、会員になればいつでもサービスを受けることができます。個人会員以外にも最近では会社団体や、クレジットカード会社・保険会社などが他社との差別化のために、福利厚生の一環として自社の商品に自動付帯するようなケースも増えています。

主なサービスをまとめると

	医療機関情報の紹介	24時間電話相談	専門医紹介	セカンドオピニオンの提供
会員のメリット	<ul style="list-style-type: none"> <li>●自宅や会社に近い希望の医療機関の情報入手できる。</li> <li>●夜間診療施設</li> <li>●人間ドック施設</li> <li>●歯科診療所等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●夜間でも気軽に相談ができる。</li> <li>●直接医師に聞けないことが聞ける。</li> <li>●健康相談</li> <li>●介護相談</li> <li>●育児相談</li> <li>●メンタルヘルス</li> <li>●薬の副作用等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高度な医療を受ける為の専門医の紹介が得られる。(紹介状の手配を含む)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●より良い治療をする為、主治医以外の診断に対する見解や治療方針のアドバイスが得られる。</li> <li>●他の治療選択肢を知るチャンスが生まれる。</li> </ul>

医療機関情報とセカンドオピニオンの重要性については次ページで紹介！

※セカンドオピニオンとは…一人の医師の意見だけで決めてしまうのではなく、別の医師の意見なども聞いて、患者が治療法を決めることをいいます。

セカンドオピニオンの重要性

ある医療情報会社の実際の相談事例(2例)

**CASE1**  
54才 男性

**相談内容** 肺ガンの疑い  
胸部レントゲンにて3cmの陰影あり。気管支鏡検査でガン細胞は見られなかったが切除を進められている。

疑いがあるだけで切除手術をするという説明に、不信感を持っています。

**セカンドオピニオン**  
風邪で高熱を出した後の診断であり、レントゲンの影はガンではなく肺炎でした。現在は軽快しているので手術は不要です。(今後も経過観察)

**CASE2**  
61才 男性

**相談内容** 変形性随炎症、腰部脊椎管狭窄症(加齢ヘルニア等で神経を圧迫)  
腰痛ヘルニアが前立腺肥大手術により増大。外科手術しか治療がなく社会復帰まで1年と診断される。

手術での社会復帰は1年と長いので、他に治療法はないでしょうか。

**セカンドオピニオン**  
専門医による、体に負担の少ない内視鏡手術で仕事に復帰できました。1年と言われた治療期間が2週間で済み、経済的にも非常に満足しています。

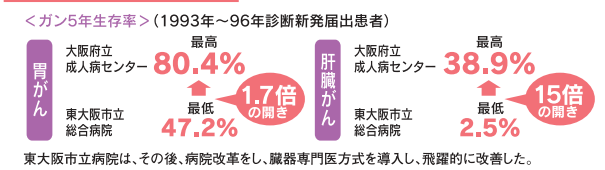
●セカンドオピニオンが有効だった事例です。反対に不安を抱えている患者がセカンドオピニオンによって、現在の治療は最適であるとの確信を得られるケースもあります。  
●診察を受ける時は、複数の医療機関で検査するべきです。読影医(放射線画像を見て診断を行う人)の技量で診断が変わり、症状の重い病気が発見されることもあり、見落としリスク軽減に繋がります。

医療機関情報の重要性

検証1 拡がる地域格差 小児科の医師数が、都道府県によって倍以上の開きがある。(厚生労働省統計より)



検証2 病院間格差の現実 大阪府が公表した地域がん拠点病院のがん生存率。



●世間で称される大病院でも治療結果にこれだけの開きがあります。病院選びも慎重に検討すべきです。

検証3 設備・スタッフの差が顕著に

増え続ける乳がんの治療が、早期であれば、乳房の全摘手術と、温存手術に生存率に差はないことが乳癌学会で発表されているにもかかわらず、以前に読売新聞が実施した全国調査では乳房温存率は、5%~94%と差が顕著になっている。

●検査設備の精度、執刀医の技量の優劣で、このような結果が生まれると推測されます。

検証の結果

必要なのは  
医療情報  
サービス提供会社

- 患者側に不足している事
- ①病院の治療成績
  - ②治療法
  - ③専門医
  - ④検査施設
  - ⑤最新治療などの情報

インターネットの普及で最新治療や施設がキャッチできるようになりましたが、広告宣伝など偏った内容があるので注意が必要です。(個人で情報収集するには限界があり)

キーワードは「受ける治療から選ぶ治療」へ

従来までは大きな病気にかかった際は、近所のかかりつけ医の出身大学病院や提携病院を紹介され、そのまま治療するケースが大半でした。しかしセカンドオピニオンの定着で、良い治療を求め市外・県外の病院へ行くポテンシャルが進んでいます。また経営効率を追求するため、規模の大小を問わず専門治療に特化し、特定治療に高いレベルの医療技術を持つ病院が増えてきます。医療知識がなく情報を正確に入手できない一般の消費者にとって、医療情報サービス会社が提供するサービスは有効な手段となります。クレジットカードや保険にも自動付帯されるなど、将来市場規模が広がっていくことは間違いなく、今後の動向に眼が離れません。

(株)スターコンサルティング  
代表取締役  
Financial Planner  
石井 亘

名古屋市中区2-10-22 CH伏見駅前13F  
TEL:052-209-7720 FAX:0120-75-2247  
E-mail:starcing@mb3.suisui.ne.jp

HPアドレス:star-cing.co.jp  
star-fp.jp (がん治療HP)

※最新がん治療情報から健康保険制度まで詳しく解説しております。堅苦しい内容でなく、定期的にゲストを招き、対談形式で分かり易く情報提供していくとすHPです。